～心豊かな「筒井っ子」の育成を目指して～

福岡県北九州市立筒井小学校

１　子どもの心を育む豊かな体験活動の推進

最近の青少年による凶悪犯罪の続発など問題行動の要因として、子どもの「心の教育」が十分でないことが指摘されている。また、平成１０年度の中央教育審議会答申の「幼児期からの心の教育のあり方について」においても、「心の教育」の重要性が叫ばれているのも周知のとおりである。

このような社会的状況の中、北九州市においても、平成１０年度から「心の教育を考える月間」を実施し、市民の方々に子どもの「心の教育」の重要性を訴えたり、子どもが夢を語る場を設けたりする等、「心の教育」について啓発を行っているところである。

＜中央教育審議会答申＞

「心の教育」の重要性

⇩

＜北九州市＞

「心の教育を考える月間」

市民の方々に子どもの「心の教育」の重要性を訴えたり、子どもが夢を語る場を設けたりして、「心の教育」について啓発を行う。

・中学生「夢」会議　　・子育て講演会　　・「ハートフル子どもフォーラム」

（本校は、昨年度、「心の教育」の推進を担う「道徳的実践活動推進地域」の指定を受けている。）

本校区は、東西に国道３号線、南北に国道２００号線が通り、交通の便のよさから、近年マンションが多くなり、家庭数の９割近くがマンションや社宅住まいである。保護者の勤務等で転出入も多く、生まれも育ちも筒井の町という家庭が少ない。いわゆる「地の人」が少なく、筒井という地域をあまり知らずに生活している保護者や子どもたちも多く、 地域との関わりが深いほうではない。また、校区には、子どもが思いっきり遊べる山や川なども少なく、自然の中での体験は多くはない。

以上のような社会的背景や、校区・児童の実態をもとに、以下に示すように、本校の「一人一人が課題を見つけ、実践する力をはぐくむ『筒井：総合活動』」という研究主題に絡めながら、現在、子どもの心を育む豊かな体験活動を推進しているところである。

＜学校教育目標＞

創意と活力をもって感動の教育を行い、
知・徳・体の調和のとれた基礎的な力と豊かな情操を身につけた児童の育成

⇧

＜めざす児童像＞

自分が好き、友達が好き、学校が好きな筒井の子

・めあてをもち、進んで学ぶ子に　　・自ら判断し、行動できる子に

・安全に気をつけ、明るく生きる子に　　・豊かな情操をもち、思いやりのある子に

⇧

＜研究主題＞

一人ひとりが課題を見つけ、実践する力を育む「筒井：総合活動」
～地域の人・もの・ことと触れ合う活動を通して～

⇧

＜子どもの心をはぐくむ豊かな体験活動の推進として＞

地域の人・もの・こととのかかわりを通して、心豊かな「筒井の子」の育成

２　豊かな体験活動の実際

(1)　自然に関わる体験活動

① 「ハヤブサと私たちの町の撥川」（第５学年）

この実践は、工場の煙突に巣を作りひなを育てるようになったハヤブサに目を向けて取り組んだ昨年度の実践「北九州の夢に向かって飛ぶハヤブサ」から発展した学習である。ハヤブサの数の激減は、川にすむ生き物にも関係があるのではないかという疑問から、校区を流れる「撥川」に目を向け、地域の抱える環境問題や川と生活とのかかわりについて追究していった学習である。

学年のテーマを「自然環境と自分たちの生活との関係を『川』から学ぶ子どもの育成」とし、まず、ハヤブサの観鳥会や校区を流れる「撥川」の観察から始め観鳥会や川の観察後の感想をもとに、２７時間の学習計画を立て進めていった。

＜学習の流れ（27 時間）＞

1 ハヤブサの雛の観察と撥川の見学をしよう。④
2 自分の課題を決め、友達と協力して課題解決の方法について話し合おう。③
3 グループのテーマに沿って調べ学習をしよう。⑧
4 調べたことをまとめ、発表し合おう。⑩
5 お世話になったＧＴにお手紙を書こう。②

＜昨年度の学習の様子＞

工場の方にお話を聞きました。

影絵で発表しました。

新聞に紹介されました。

課題追究場面では、「ハヤブサと撥川の関係」グループ、「撥川の生きもの」グループ、「撥川の工事」グループ、「撥川の水とリサイクル」グループの４つの課題別グループに分かれた。昨年度お世話になった工場の方や市役所の環境課の方々への取材、インターネットでの検索、図書資料の活用、撥川や生活に結びついている水（学校の池の水、水道水、洗剤の水等）の水質検査など、子どもたちは、昨年度の経験を生かしながら、意欲的に課題解決のための調べ学習に取り組んでいった。

発表会では、ハヤブサのことでお世話になっている工場の方、今回情報を提供してくださった市役所の方々も招待し、子どもたちは、緊張の中にも、今まで追究し調べまとめてきたことを、みんなに聞いてもらえる、見てもらえるという喜びを感じながら、意欲的に発表することができた。

＜発表会の様子＞

昨年度の実践をもとにして取り組んだこの学習は、環境問題や自分たちの生活とのかかわり、さらには、これからの筒井の町づくりにもつなげていくことができ筒井の一員として自然環境を守ることの大切さを自覚させ、その意識を高めることができた実践となった。

川を大切にすることが生き物を大切にすることになることを訴えている劇

生きものも人間も住みよい町にしたいと考えて作った「未来の町　筒井」

こんな撥川になってほしいという願いをこめて作った撥川音頭

水質検査をもとにした水環境についての発表

(2)　交流に関わる体験活動

①　「ハートフル子どもフォーラム」（全学年）

この交流は、「子どもたちの道徳的な実践活動について発表や意見交換を行い、人間としてのよりよい生き方について考えさせたい」というねらいのもと、保護者や地域の方を招き、校区にある熊西中学校の生徒たちともに取り組んだものである。

手話をしながらの「ふるさと」全員合唱、小学校によるハートフル劇、中学校による福祉や環境についての発表という流れで進めていった。

＜ハートフル劇「心がふくらんだとき、心がちぢんだとき」の概要＞

「朝、二人の小学生が学校に向かっていると、向こうから中学生がやってきました。小学生の子どもたちは、いつも学校で「朝の『おはようございます』のあいさつは大事だね。」と言われています。でも、知らない中学生だし、ちょっとこわそうな感じもするし、と思いながら、小さい声で「おはよう」と中学生に声をかけました。するとその中学生は、「あいさつは、大きな声で『おはようございますやろ』と言います。二人の小学生は、安心したように頷き、スキップしながら通り過ぎていきました。また、向こうから中学生がやってきました。今度は、さっきと違って、大きな声で元気よくあいさつができたという話です。」

学校も終わり下校している時のことです。家に帰っていると、庭で花の手入れをしているおじいさんを見かけました。子どもたちは、おじいさんに「こんにちは」と声を何回かかけたのですが、おじいさんは、背中を向けたまま、振り向きません。子どもたちは、「聞こえないはずないのに、ちょっとぐらい振り向いてくれてもいいのに・・・」と思いながら帰って行きました。

それから、数日後のことです。小学生の子どもは、おかあさんと耳の病院に行きました。順番を待っていると、お医者さんと患者さんの声が診察室から聞こえてきました。その患者さんは、あの時、花を植えていたおじいさんで、耳がよく聞こえなかったから病院に来ていたのでした。今は、補聴器をつけていて、よく聞こえます。おじいさんが、診察室から出てくると、小学生は、「おじいさん、耳が悪かったんだ」ということを知り、「こんにちは」と声をかけ、庭に植えている花のことの話になったという話です。

劇を通して、子どもたちは、あいさつすることや声をかけ合うことで、心が和らぎ温かな気持ちになるということ、また、相手のことを理解することの大切さなどを感じ取ることができ、心温まる一時であった。

地域の方々とともに行った小学生と中学生との交流は、小学校・中学校とのつながりを深めるだけでなく、地域を大切にする温かな心をはぐくむことができたと考えている。

この場面は、劇を演じている途中、劇を止めて、「皆さんは、今、心が膨らんでいますか。それとも、縮んでいますか。」と会場のみんなに問いかけ、心が膨らんだときは大きなハートを、心が縮んだときは小さなハートを上げ、自分の心を示しているところである。

②　「夢に向かって」（第６学年）

学年テーマを「地域の人や身近な人との関わりを通して、自分の夢に向かって学び続ける子どもの育成」とし、以下に示す５０時間の学習計画を立て、６年というこの時期での「将来の夢探し」を始めていった。子どもたちが考えた「将来の夢」「将来就いてみたい仕事」は、看護士、歌手、

スポーツ選手、料理人、美容師、動物相手の仕事など、様々な分野の仕事があがり、同じジャンルのグループで追究していくこととした。ここでは、２つの事例について述べる。

＜学習の流れ（50時間）＞

1　自分の将来の夢を見つけよう。⑩
2　いろいろな人との出会いの計画を立てよう。⑤
3　調べ学習を行い、出会いを体験しよう⑧
4　調べたことや体験したことをまとめ、報告し合おう。⑫
5　自分史をつくろう。⑮

＜事例１＞「人に教える仕事をしたい」グループの場合

このグループの３人は、小学校の先生、パソコンの先生、スイミングの先生になりたいと考えている。

そこで、まず、どうやったら自分の夢をかなえることができるかをインターネットで調べていった。そして、本校の教職員やスイミングの先生にアンケートをとったり、パソコンのインストラクターの方にＥメールを送ったりした。

しかし、アンケートやＥメールの返事が相手の都合もあり、なかなか集まらなかったので、教師の支援として、「本校の教室を借りて模擬授業をしてみたらどうか。」と声かけをすると、是非やってみたいとのこととなった。そこで、日頃から子どもたちの接触が多い１年生との模擬授業を考え、１年生の先生にお願いをし許可を得た。その後の子どもたちは、算数の模擬授業に向けて１年生の担任と授業の打ち合わせや準備をするなど、子どもたちの意欲は大変高まった。

模擬授業（算数）当日は、３人の子どもたちは多少緊張しながらも、計画どおり授業を進めていくことができ、１年生たちも進んで学習し、６年生のお兄さん、お姉さんたちから教えてもらえて喜んでいた。

＜事例２＞「弁護士・裁判官等司法関係の仕事をしたい」グループの場合

インターネットや電話で、裁判官や法律事務所への取材を試みるが、時間と場所の関係で取材対象者がなかなか見つからなかった。そこで、クラスの友だちなどに法律関係の仕事をしている身近な人はいないか尋ねることとなった。すると、親戚が法律事務所に勤めているという友だちがいたので、そちらに取材をお願いした。また、このグループは、取材日までに、友だちの身近な事件を取材し、自分たちの模擬裁判の様子をＶＴＲに収め、取材当日、実際に弁護士の先生に「無罪 or 有罪」か、聞いた後にまとめていくというように、計画的に課題を追究していった。

取材当日は、弁護士の先生や裁判所の職員の方に積極的に質問をしていた。また、裁判所の裁判官席に座らせていただいたり、実際の裁判の様子を見学したりすることで、子どもたちは、非常に感動し、発表会に向けての意欲がさらに高まった。

子どもたちは、地域の様々な人との出会いや体験を通して、どんな仕事でも、その仕事が好きで努力することが大切だということ、いろいろなことに興味をもつこと、仕事をするためには健康であることなど、学びとることができた。

この学習は、これからの自分について深く考えるきっかけとなり、子ども一人一人りが将来に向けて夢や希望を大きく膨らませることができたと考えている。

3　成果と課題

○　工場に巣を作るハヤブサから校区を流れる撥川に目を向けさせていった取り組みは、命の大切さを感じ取らせるとともに、自分たちの住んでいる自然環境にも思いを広げ、人が住みよい筒井の町をつくっていこうとする心を育む体験となった。

○　「ハートフル子どもフォーラム」や「夢に向かって」では、様々な地域の人との出会いや交流を通して、人の温かい心や生き方にふれることができ、自分の生き方について考える体験となった。

○　今後も、「人・もの・こと」との体験活動を通して、子ども一人一人に豊かな感動を与え、「筒井」の町がもっと好きになる子どもを育てていきたいと考えている。